

# 資料館だより

第43号

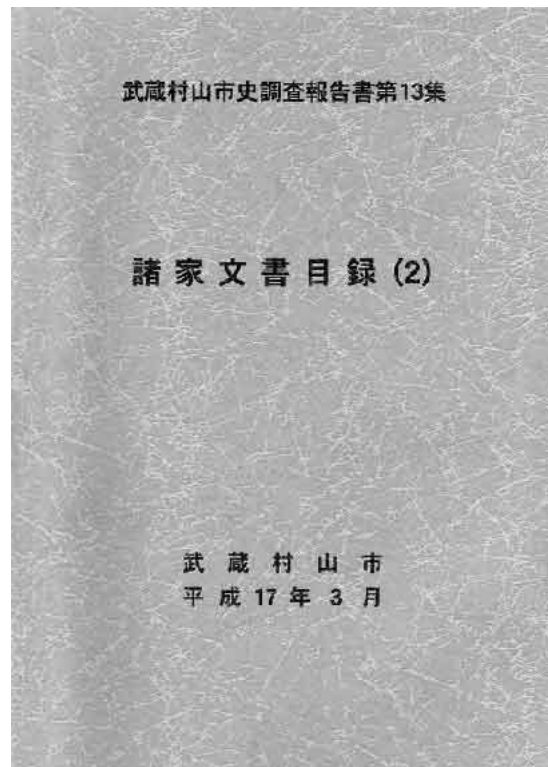
平成17年(2005)

9月30日

編集・発行 市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620  
ホームページアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryokan.html>



武蔵村山市文化財資料集 二十五  
注解 指田日記 上巻  
～村の陰陽師「指田撰津」の日々の記録～  
天保五年～安政元年



武蔵村山市史調査報告書第13集  
諸家文書目録(2)

## 書籍販売のお知らせ

平成17年6月1日に『注解 指田日記 上巻』と『諸家文書目録(2)』が発刊されました。「指田日記」は、中藤村の陰陽師であり、神職であった指田撰津正藤詮さしだせつのかみふじあきらが天保5年(1834)から明治4年(1871)までの38年間にわたって書き綴った日記で、市有形文化財に指定されています。武蔵村山市域及び周辺地域の世情・産業・風俗・慣習を知る上での貴重な資料です。平成6年(1994)には、日記原文を文化財資料集として刊行しました

が、すでに完売し、再販の要望も多くいただいています。今回の刊行に際しては、より注釈を充実させ、一部読み下し的に表現するなど、読み易くなっています。『諸家文書目録(2)』は、市内の旧家に残る近世・近代の文書を整理したものです。『注解 指田日記 上巻』は1冊600円、『諸家文書目録(2)』は1冊500円で資料館及び市役所1階で販売しています。

武蔵村山市の<sup>しんしょうこう</sup>新省講

武蔵村山市立歴史民俗資料館学芸員

青木 哲

平成17年2月8日に市内中藤の木村家にて家屋の取り壊しがあり、その際、発見された文書等を資料館にて受け入れました。その中に、「明治廿八年十二月十六日記 新省講社連名簿 中藤村世話人内野亀吉」と表紙に墨書されている綴りがありました。今回はこの新省講について紹介します。



新省講社連名簿

これは縦20.5cm 横33.5cmの和綴じ形式の覚書で、頁数は表紙を含め17頁分ありますが、記入は8枚目までで終わっています。

表紙における「新省講」の表記は、「新盛講」と書かれたところを、「盛」の上に大きく×印をつけて、その左横に「省」と書いてあります。この表記は単にあてるべき「ショウ」の漢字を間違えたものか、初期には「新盛講」の字をあてる時期があったものかのどちらかで

しょうが、これは「新省講」という名称から推定して、書き間違いと思われる。

新省講とは、東京都東村山市野口の大善院の不動明王を信仰する講の名称として使われているものです。

恵日山大善院は、創立時期は未詳ですが、『東村山市史』によると、近代に入ってから創立と記載されています。寺内の解説文によると、その由緒として、八王子市高月町の恵日山圓通寺の塔頭（脇寺）で、天正元年（1572）に旧修験を廃し、正寺格に改められ、恵日山大善院と称するようになった事が記されています。そして、明治32年（1899）に慈善和尚により東

村山に同院を移し、現地における開山とするとあり、この年をもって開山年としています。



恵日山大善院（東村山市）

この大善院は「野口の不動さん」と呼ばれ、東村山市内をはじめ、所沢市などにも幅広く講が組織され、武蔵村山市内にも初不動に参拝をした事が下記のように報告されています。

大善寺の初不動

東村山市の大善寺に祀られた不動明王を信心する講がかつて原山にあり、不動講と称していたが、六〇軒もの講員がいた。講元は川島家・山田家であった。一月二八日には初不動の法会がなされ、講中は参拝にいくが、まず講元家に不動の掛け軸を飾って拝み、一杯やってから出発したという。

（『武蔵村山市史調査報告書第8集 武蔵村山の民俗その四』より）

そして本資料中には

入り組内埜亀吉峰岸徳太郎  
両名取集メ銀行へ預ケノ事  
谷組峰岸為吉へ依頼ス  
神組川島林蔵依頼ス

という文章があり、「入り組」「谷組」「神組」と三つの組の名が見つけられます。これらの名称は各地域の距離的關係から見て、入り・谷津・神明ヶ谷戸の三地区のことを書いたものと考えられます。

ところで、現時点で確認される民俗調査結果では「谷組」「神組」という名称は採集されていません。「入り組」という名称は、旧横田村にお

いてその名が採集されていますが、地理面を考えると、入り地区のことを指すと考えるべきでしょう。また、「谷組」「神組」ですが、谷津には「〇〇組」といった名称は採集されておられません。神明ヶ谷戸には四つの組があるものの、それぞれ東組・中組・西組・日陰組という名称で、こちらでも神組は採集されていません。ここであげた「組」とは、「現在の自治会組織を構成している組や班ではなく、古くから冠婚葬祭の互助などの日常生活におけるツキアイの単位として機能してきた家々の集まり、または、そうしたツキアイのある家同士のこと」(『武蔵村山市史調査報告書第7集 武蔵村山の民俗その三』より)を指しています。そこで、この三つの名称は、こうした地域的相互扶助組織ではなく、地域区分を指す名称と思われ、新省講内で使用された名称だと考えられます。

新省講の構成員数ですが、表紙をめくると「記」「新加盟者」として表に12名、裏に10名の名前が記されており、その中で一番目に名が載る「内野亀吉」氏と三番目に記される「川島林蔵」氏の名の上には「世話人」と書かれており、この二人が新省講を組織していたと想起されます。

次にこの新省講の行なわれていた年代ですが、前記の通り、綴りの表紙に年代記載があり、明治38年(1905) 当時に存在していた事が確認されます。そして、大善院の境内にある石造物をみると、この翌年にあたる明治39年(1906)の年号が確認できる碑が二つあります。

一つは、大善院の正面入口の向かって左に立つ「成田山開眼不動明王 新省講」の石塔で、その背面には「明治三十九年八月十五日建之 願主」とあるものです。これは大善院の小島宗善住職によると、「千葉の成田山から大僧正を招いて、御魂供養をした際に建立したもの」だそうです。

もう一つは、「奉納 燈籠 敷石」とあって各地域の新省講講社及び講員名を刻んだ石碑です。この背面には「明治三十九年十一月落成」とあり、現・武蔵村山市からは「中藤村講社」という名が確認でき、その中に更に「入組」「谷組」「神組」があり、この三つの名称が新省講で使用されたものという考えを裏付けるものです。この石碑にある「燈籠」とは、背面に「明治三十九年十一月建之」と刻まれる、正面入口両端に立つ二基の石灯籠のことと思われれます。

明治39年の大善院には、このような各種の動きがありました。とすると、明治38年12月の日付を持つ本資料は、翌年の大善院におけるこれらの活動に参加する準備の為に、講員名などをまとめたものではないかと推測されます。

大善院内では、この他にも武蔵村山市の新省講活動を知る手掛かりとなる石造物があります。

先述の石碑の右隣にある「開山行者慈善塔」は、大正3年(1914)のもので、その基礎部分に各所世話人の名前が刻まれており、その中に「中藤」と「萩赤」の字名と、各地区から2名の世話人の名前を見つけられます。中藤の世話人の名は、本資料内に確認される名前なのですが、萩赤(萩ノ尾と赤堀の両地区の事。この2地区は隣接しており、住民組織等も合同で運営している)世話人のそれは、本資料には見つかりませんでした。また萩赤の名が出てくる資料として、現時点ではこの慈善塔が最も古いものであるのもので、萩赤の講社は後発組織だったとも考えられます。

本堂前の参道脇には、<sup>こんがらどうじ</sup>矜羯羅童子と<sup>せいいたかどう</sup>制吒迦童子の二大童子があり、ここにも武蔵村山市の新省講の活動が確認されます。これには、昭和5年(1930)10月竣成という日付があり、武蔵村山市からは「村山村萩赤組」38名、「原山」45名、「中藤」は計78名、「神明ヶ谷戸」11名の、総勢171名が新省講員であったことがわかります。この中で「中藤」は何故か二つに分けて、講員名が刻まれています。二つめの「中藤」には改めて世話人の名が記されており、且つその名前は一つめの「中藤」世話人のそれとは、違う名前であるので、同地区内で組織を二分したものであると思われれます。他地区と比べて構員数が多い為、分立させたものとも考えられますが、現段階の調査では、二つに分けた理由はわかりません。

しかし、当時、新省講が武蔵村山市内で、これだけの講員を有するほどの活動をしていた事は確かです。この新省講がどのように始まり、広まったのかという点や、萩赤以西の地域では活動しなかったのかなどの点がまだ不明ですが、それらは今後の課題としたいと思います。

末筆ながら、お忙しい中、御協力いただきました大善院の小島宗善住職にこの場を借りてお礼申し上げます。

資料館利用状況（平成16年度）

	開館日数 (日)	利用者数 (人)	市 内		市 外	
			人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
4 月	24	921 (180)	312 (21)	33.9 (11.7)	609 (159)	66.1 (88.3)
5 月	23	601 (76)	255 (26)	42.4 (34.2)	346 (50)	57.6 (65.8)
6 月	25	434 (25)	191 (5)	44.0 (20.0)	243 (20)	56.0 (80.0)
7 月	29	599 (31)	216 (0)	36.1 (0)	383 (31)	63.9 (100)
8 月	29	653 (19)	269 (7)	41.2 (36.8)	384 (12)	58.8 (63.2)
9 月	28	641 (76)	177 (0)	27.6 (0)	464 (76)	72.4 (100)
10月	29	2,479 (1,896)	239 (0)	9.6 (0)	2,240 (1,896)	90.4 (100)
11月	28	882 (236)	388 (134)	44.0 (56.8)	494 (102)	56.0 (43.2)
12月	25	985 (538)	581 (403)	59.0 (74.9)	404 (135)	41.0 (25.1)
1 月						
2 月						
3 月						
合 計	240	8,195 (3,077)	2,628 (596)	32.1 (60.7)	5,567 (2,481)	67.9 (39.3)

※利用者(入館者)には団体を含み、( )内は団体の内数

1月～3月は資料館常設展示リニューアル事業に伴う休館期間

◆事業予定

10月22日(土)～12月11日(日) 特別展「武蔵村山市の年中行事ーむらやま歳時記ー」を開催します。市内にて確認される年中行事から主なものを取り上げ、紹介します。

12月10日(土) 体験教室「お正月飾りづくり」

詳細は市報等でお知らせします。